

ボラ情報・お知らせ

講演会「子どもにとっての『遊び』と現代社会」

《内 容》 NPO 法人日本冒険遊び場づくり協会「お外で子育て」推進講座(共同開催講座)子どもの外遊びの必要性、プレーリーダー(プレーワーカー)の役割などについて日本冒険遊び場協会代表の関戸博樹氏を招いてお話をさせていただきます。

翌日はさまざまな外遊び(冒険遊び)のノウハウを関戸博樹氏に学びながら「第40回みんなで遊ぼう会」を実施する予定です。



《日 時》①令和元年 12月21日(土) 14時～16時
「子どもにとっての『遊び』と現代社会」
②令和元年 12月22日(日) 10時～14時
「第40回みんなで遊ぼう会」

《場 所》中津市教育福祉センター(中津市沖代町1-1)

《お問い合わせ先》

みんなで遊び場をつくろう会 事務局 原口サトミ
TEL090-9498-566 Eメール arinko@rapid.ocn.ne.jp

なかつ子ども劇場

なかつ子ども劇場創立40周年記念事業

「アラビアンナイト
～魔法のランプと明日のヒカリ～」

なかつ子ども劇場は、親子で生の舞台を鑑賞し心豊かにともに育ちあいたいと活動しています。ぜひ、一緒に楽しみましょう!!



日時：12月20日(金)
18時30分～
場所：中津文化会館大ホール

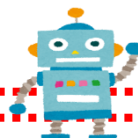
アラビアンナイト
～魔法のランプと明日のヒカリ～

《お問い合わせ》：なかつ子ども劇場
TEL 0979-24-1455
FAX 090-6776-6870

ボランティア・市民活動センターって？

中津市社会福祉協議会には『ボランティア・市民活動センター』があり、ボランティア活動や市民活動に関する相談や情報提供、活動先の紹介を行なっています。また、ボランティア団体等の活動支援や講座やセミナーなどの学生の機会の場を作っています。

これからボランティア活動をはじめみなさんを応援する窓口なので、わからないことや困ったことがあれば、中津市社会福祉協議会にある『ボランティア・市民活動センター』にどんどん相談してください。



はじめまして!

10月1日付で地域福祉課に来ました、木内千津子(きのうち ちづこ)です。

地域のいろんなことを、楽しみながら覚えていきたいと思っています。

しばらく県外に出ていたので中津で新しい発見がいっぱいあり、改めて故郷のいいところを見つけてワクワクしています。

好きなものは音楽、生き物、他なんでも。

地域の様々なイベントに顔を出してみようと思っていますので、見かけたらお声掛けください。

よろしくお願ひいたします♪



ボランティア・市民活動情報紙

ぺんぎん



No.239

2019年11月発行

え：よしだ みずほ

《発行》中津市ボランティア・市民活動センター(中津市教育福祉センター内)

〒871-0021 中津市沖代町1-1-11 TEL 23-2095 FAX 24-7682

《ホームページ》<http://www.nakatsu-s.or.jp/> E-MAIL volunteer@nakatsu-s.or.jp

ボランティアグループの紹介!!



おもちゃ病院 ややま



『おもちゃ病院 ややま』は、皆さんの大切なおもちゃを修理(治療)するボランティアです。メンバーは"ドクター"と呼び合っており、活動は今年で7年になります。今回は三代目の代表、西本さんにお話を伺いました。

西本さんは、「老後に何かしようと考えていたら、おもちゃ病院の講習が大分市であることを知り参加しました。最初は3人で、ピラ配りから始まり、今は大分市から独立して4年になります。壊れたら捨てるのではなく、治しても使いたいという気持ちが嬉しい。」と活動への思いを話されていました。依頼者の年齢もおもちゃも様々で治療方法も無限です!古い物は部品が無いこともあり、自分の家で使わなくなった物を解体してネジやコードをストックしておいたり、材料がない時は部品を作るところから始めます。すぐに治らない時は「入院」といって持ち帰って修理(治療)をしてくれます。「喜んでくれるからね。」「楽しいよ。好きでやってるから」と皆さんおっしゃっていました。「ドクター」の中には新人さんもいます。皆で協力して、得意分野やアイデアを持ち寄って話し合いながら治していきます。

お話を聞いている時に、おもちゃが動き出しました。「動いたね」「あの子喜びよ!」「良かったな」と皆がおもちゃの周りに集まって喜ばれていました。楽しい雰囲気伝わってきます。皆さんの大切なおもちゃと思い出に、おもちゃ病院の"ドクターたち"は真摯に向き合ってくれています。



開院日…毎月 第3日曜日

場 所…偶数月 イオン三光

奇数月 中津市教育福祉センター、等

時 間…10時～15時 開院日が変更になる場合があります

ホームページで確認お願いします

ボランティア(ドクター)大募集!! 初心者大歓迎!



介助犬フラッシングの相談がありました！！

あなたは...

最近「**人と人のつながり**」を感じましたか？



ボランティア市民活動センターにはいろいろなボランティアの相談があります。今回の相談者は、沖縄の石垣島に住まれており、筋力が低下するという障がいがある男性です。介助犬と一緒に今年の秋のラグビーワールドカップの観戦目的で大分県に行き、中津のホテルに宿泊するが、滞在中の介助犬のブラッシングができず、お願いできる人はいますか？という相談でした。その後、情報紙「ペンぎん」のお知らせに載せると4名の方からご連絡を頂き、実際に2名の方のボランティア活動につながりました。活動した方に感想をお聴きしました。



辛島さん

ボランティア活動をして『人と人のつながりってすごい！！』って思ったことが第一印象ですね。遠い土地から中津市に旅行に来られ、新開さんやオメガくんに出逢うことができました。介助犬のことは少し知っていましたが今回、直接お会いすることでより具体的に知ることができました。初めてだったのですが人のお役に立て良い日を過ごすことができました。

介助犬ブラッシングボランティアをやってみて自分も楽しく、オメガくんも懐いてくれて嬉しかったです。中津市のビジネスホテルに介助犬と一緒に泊れるバリアフリーのお部屋があることにビックリしました。良い経験ができました。



守口さん



新開さん

私は沖縄県の石垣島に在住しています。筋力が委縮(いしゅく)する進行性の難病で、現在電動車椅子を利用し、介助犬の助けを借りて生活をしています。今回、大分県で開催されたラグビーワールドカップの観戦チケットが手に入ったことをきっかけに旅行の計画を立てました。車椅子を利用した旅をするためには、さまざまな準備が必要です。バリアフリーの交通手段と宿泊先はもとより、私の場合、介助犬オメガのケアを誰かにお願いするの必要がありました。介助犬は身体障害者補助犬法により、各施設、レストラン、病院等同伴受け入れが義務となっています。そして私たちのような利用者には、介助犬を常に清潔にしておく管理義務があります。私は障がいのため自分でブラッシングや清拭ができないため、誰かに手伝ってもらわなければなりません。



オメガくん

今回、オメガのケアをしてくれたボランティアの皆さんには、愛情持って接していただき、オメガもすっかり身を任せておりました。とても丁寧にケアしてくれたので、滞在中オメガはずっときれいであることができました。ケアの仕事を楽しんでいただいている様子を見て、私もお願いしたことでボランティアの方々のお役に立てたのかなと、嬉しく思います。

地域サロン「福ろうの家」へボランティア活動に行ってきました！！

今回初めて地域サロンのボランティアに参加させて頂きました。私は参加する前まで地域サロンは決まったことを行う場所だと思っていました。しかし「福ろうの家」では福ろうの家に来る方がそれぞれ考えて健康に良い体操をしたり、頭を使い、しりとりやクロスワードをしたりしていて、みなさんが楽しみながら行うことができる良い場所だなと感じました。みなさんが楽しそうにしている姿を見て、私も笑顔になりました。私自身、部活動や学業のことがあり、成長していくほど祖母や地域の方と関わるのが少なくなりました。そのため今回大勢の方と話すことができ、とても嬉しかったです。また、参加しようと思えました。



小野さん

「そば打ちボランティアご紹介！！」

そば打ち 20年。かなりの腕前です。



沖代町の地域サロン『すすめの家』で平成17年から10年以上、目の前で蕎麦を打って出来立てをふるまってくれる、蕎麦打ちのボランティアをされている方を紹介します。



稲積さんご夫妻

北九州の小倉にお住いの稲積ご夫妻です。定年前に蕎麦打ちの講座を受けてから、20年。かなりの腕前です。こちらに来るようになったきっかけは、「中津で一人暮らしをしていた叔母が体調を崩し、住民型有償サービスの沖代どんぐりサービスを通して代表の吉田さんに出会いました。もともと人に頼るのが苦手な叔母も献身的に支えてくれる吉田さんに唯一心を開き、すすめの家にも行くようになりました。」叔母が亡くなるまで本当にお世話になりました。すすめの家の皆さんも叔母と自然に接してくれて、人のふれあいの大切さを知りました。」とおっしゃいました。



現在はボランティアで年に数回、季節によって違う蕎麦を作りに来てくださっています。「感謝の気持ちと、叔母がご縁をつないでくれた『すすめの家』には“来させてもらっている”という気持ちでやっています。」また、年に一度は小楠地区のこまどりの家にもボランティアに行くようになりました。「ソバは人をつなぐんですよ」と笑顔でおっしゃいました。

点字絵本を作る会「^{えてんらく}絵点楽」

小栗さんが「絵点楽」を始めたきっかけは、神奈川県「ユニリーフ」という団体の記事を新聞で目にしたことでした。それは毎月5冊の点字絵本を全国の視覚障がいの子供達に送っているというもので、その子の性格や希望に合った絵本を選んで今までに約900冊を送っており、目標は1000冊だということでした。活動に感銘を受けた小栗さんは今年の7月にボランティアグループ「絵点楽」を立ち上げ、中津市内の小学校に点字絵本を知ってもらおう活動をスタートさせました。



絵本と点字を楽しんでもらいたくて、団体名を「絵点楽」にしました♪

小栗さんの話

わたしたちは手話を言語、点字は文字文化だと思います。墨字(普通に書かれた文字や印刷された文字)と点字があって当たり前の中であり、大人や中途失明の方だけでなく、子ども達にも小さい時から触れ合ってほしいです。絵本は1冊1冊、大きさや形が違います。本をバラバラに解体するのも組み立てるのもみんな手作業でしているので大変だと思ったりありますが、子ども達にはたくさんの絵本を手にしてほしいです。ここにある絵本は、ほぼ買ったものなのですが、先月小幡記念図書館で廃版になった絵本を頂けることになりました。廃版になり一度役目が終わった絵本がまた活躍することがいいですね。



代表の小栗さん

メンバーの奥山さん